

05

鵜呑みにせず、自ら飛び込む。

主な栽培品目

イチジク・オクラ・はなっこりー



イチジク農家／会社経営

村上 浩

Murakami Yutaka

PROFILE

広島県出身。学生時代は電子工学を専攻し、複数の企業経営に携わった後、平成29年に田布施町に移住して新規就農。イチジク・オクラ・はなっこりーを計60a栽培、田布施町認定農業者。農業の傍ら、自身もシステム開発の会社を小さく経営。

※はなっこりー…中国でなじみ深い野菜、サイシンとブロッコリーを掛け合わせて作られた山口県生まれの野菜。葉の花のような見た目、花から莖まで全て食べられる冬場の緑黄色野菜。



「農家の失敗の大半は、過剰投資なんです。トラクターを新品で買ったらあっという間に2,000万円、新規就農者じゃ投資回収できないじゃないですか。」村上さんの話は鋭い角度から切り込んでくる。企業経営の傍らに楽しんだ家庭菜園をきっかけに、田布施町内に山・農地つきの空き家を見つけ、一括購入して農業経営の世界へ。「新規就農は収入確保が最優先です。稲作は植付から収穫までの時間が長い。じゃあどうするか、JAの指導員に、みんなが栽培を嫌がる作物は何かを聞いたら『オクラ』と返事があって」オクラの収穫は、夏の暑い時間を避けて、朝と夜に中腰で作業しないといけない重労働だが、作付後1.5ヶ月で出荷できる。「収穫が



1番きついなら、1番収入になるんじゃないかな、と思いました」JAで栽培指導を受け、今ではイチジク、オクラ、はなっこりーを主に栽培、販路はJAの共同販売、町内の直売所である田布施地域交流館、オンラインの3つに分散させる。ネットオークションで中古のトラクターを12万円で落札し、自分で神戸まで取りに行ったという、その行動力には恐れ入る。

「田布施町は人がいいです。いろいろ自分でやっていたらあれいるか、これいるかと声をかけてもらえます。自分で動くことが大事ですよ」経営者として立ち振る舞う村上さんの言葉には、内容の明晰さ以上に、実践に移した人ならではの説得力がある。ゼロから始めた就農も、県の技術指導を受けてエコファーマーの認定を受け、田布施町の認定農業者にもなった。

「農業は飽きない、無限だもんありゃ。相手生き物だから。作業は大変だけど、肉体的にも精神的にも健康になれます。台風、土砂崩れ、自然由来のトラブルがたくさんあって、最初は苦労するけど全部自分でやるしかない。人相手なら調整の余地があるけど、農業の結果は人のせいにも野菜のせいにもできないからね」と笑う。

今後は自身の農業経営をモデル化し、新規就農者を増やしたい、と展望を語る。「インターネットの情報は8割胡散臭いと思った方がいい。だけど中にはいい情報もあるから、勇気を出して飛び込む。そのリスクに対する自分の許容量を把握するのが大事じゃないですか」農ある暮らしの日々を面白がる村上さんの一挙手一投足は、農業の可能性を拡張していく。

COLUMN

田布施町とイチジク

田布施町はイチジクの栽培が盛んで、県内シェア50%近くの生産量を占めています。また、町内では加工品の開発も積極的に取り組まれています。管内のJAには、イチジク生産者の集まりである部会があり、座学、現地見学、作業実習で栽培技術を学べる栽培大学が開催されています。村上さんもイチジク栽培大学に通い、栽培を始めました。完熟のイチジクが食べられる機会に恵まれるのは、田布施町ならではのです。



06 食と農をつなぐ、 よりよい食文化を育む場所。



▲古代米田んぼアートや販売品の数々。生鮮品は昼前にほとんど売り切れる。



▶カフェスペースでは、イチジクなど旬の果実をふんだんに使ったパフェやかき氷を楽しめる。高校生など若い世代の声も響く人気の空間。

米・野菜・果樹・鮮魚・加工品等販売

協同組合
田布施地域交流館
Tabuse Chiiki Koryukan

INFORMATION

〒742-1517 山口県熊毛郡田布施町中央南1-8
TEL:0820-51-0222 営業時間:8:00 ~ 16:30
休館日:12/31 12:00 ~ 1/5

田布施地域交流館は、平成14年に町内の農産物直売所として設置された施設だ。町の中心を流れる田布施川沿いに桜並木が1km以上続く好立地で、春には花見客であふれる。オープン後、農産物等の出荷者が協同組合を立ち上げ、町から施設運営の委託を受けて、農産物直売所として経営している。田布施町産の米、野菜、果樹や鮮魚のほか、敷地内の加工場で製造される総菜や菓子など、多岐にわたる商品が販売されている。田布施町外からも認知度は高く、年間の売上額は4億円に迫る勢いだ。その理由は、地産地消と、食の安全の両方を追及する姿勢にある。協同組合の鐘突久伸マネージャーは、田布施地域交流館の柱となる取り組みの



▲「たぶせ健康野菜」の認定シールが貼られた野菜



▲協同組合田布施地域交流館のスタッフの皆さん。右端が鐘突マネージャー。

きっかけを説明してくれた。「研究を始めたところ、平成23年頃の野菜の栄養価と比べて、昭和39年の東京オリンピックの頃のほうれん草や人参の栄養価が3~11倍も高いことが分かりました。原因は野菜に含まれる硝酸塩の高さにあったんです。化学肥料主体の栽培により、大量生産はできるようになった反面、栄養価やおいしさを損ない、人体に悪影響を及ぼすことも分かりました」海外においてEUでは、葉物野菜に含まれる硝酸塩の基準値を定めているが、田布施地域交流館では、その硝酸塩を抑えた野菜作りを生産者と一体になって取り組んだ。完熟発酵した有機肥料を使用し、野菜内の硝酸値がEU基準よりもさらに低い数値の野菜を、「たぶせ健康野菜」としてブランド認定した。また、出荷前農薬検査と残留農薬検査を実施する野菜安全システムを運用することで、生

産物の安全性を確保する。他にも有機JAS認定肥料で栽培し、食味値が82点以上のお米を「たぶせ健康厳選米」として売り出すなど、意欲的な活動を続けている。町産のイチジク、いちごや、漁協が養殖する牡蠣のPRイベント等のほか、子ども向けの田植え体験や、芋掘り体験、魚さばき教室を実施して食育にも力を入れる。幅広いチャレンジに一貫する理念は、食と農のより良いつながりを、いかに地域に根差して実践するかだ。「地域で育てられる美味しいものが、どのように育てられているかを伝えていくのは大事だと思います。より良い食文化の発信基地、開発基地として提案を続けて、新しい生産者が増えるきっかけにできればと考えています」田布施町の賑わいの中心で農と食、そして人が交わりながら、新しい創造が生まれている。

COLUMN

直売所で生産物売ること

直売所で生産物売ることは、大事な販売先の一つである以上、お客さんと接する貴重な機会となります。お客さんと生産者の交流は直売所だからこそその楽しみであり、生産者から野菜を活かした手作りレシピを直にもらって感動した、というお客さんの声もあるほど。また、他の生産者との意見交換は栽培の勉強にもなります。試行錯誤を続けてきた先人の話を聞くのは貴重な機会です。田布施地域交流館では、生産者が集まって栽培指導の勉強会を開いたりしています。新しい作物へのヒントがあるかもしれません。



就農までの道のり

就農に至るまでの道のりも、その後の農業スタイルも様々です。正しいルートなんてありません。お気軽にご相談いただき、自分の進みたい道を、自由に模索してみてください。



START



相談

何かを始める上で情報収集は重要ですが、TVやインターネット上の情報がすべてではありません。関係機関に相談することで、ご自身の持つ情報の正確さを見極めながら、農業への気持ちを見つめなおしてみましょう。家族や大切な方と、冷静に客観的に話すことをお勧めします。どんな農ある暮らしを望むのか、ご自身の言葉を使って、そのイメージを具体的にして下さい。



訪問

実際に農家さんの元を訪れて、話を聞いてみましょう。作物の特徴を知り、農業のリアルに気づくことができる貴重な機会です。農家さんの言葉を丁寧に聞き、その上で自分の農業への思いを真摯に伝えることで、農家さんとのつながりを持つこともできます。農家さんも、新たに農業がしたい人と話ができるのを楽しみにしています。



体験

何事も、話を聞くのと、実際に作業に従事するのはまるで違います。農作業の一部を自ら体験することで、自分の体力や身体の動かし方、土の匂いや様々な生き物など、五感を通じた気づきがあるでしょう。

田布施町では就農希望者向けの就農体験ツアー(イチジク・アスパラガス等)を開催しています。ご要望に応じて行程のアレンジも可能です。



研修

機械の操縦技術や栽培技術など、農業経営のノウハウを身に付ける重要な機会です。山口県立農業大学校での社会人研修では、農作業の基本的な流れや考えを学ぶことができます。他にも、縁があった先輩農家や農業法人の作業を手伝う形で、技術を習得することも可能です。知識を深め実践を重ねながら、就農計画を作成していきます。

>> 相談窓口
山口県立農業大学校
就農・技術支援室
0835-27-2714



就農計画を作る 自分の農業をイメージするポイント



1 栽培する作物

どんな作物を栽培したいか考えます。独自の栽培方法で新たな作物への挑戦でもいいですが、まずは地域のことを詳しく調べてみましょう。管内のJAで主に栽培されている作物は何か、どんな気候や環境、農地が多いのか。知ることによって新たなアイデアがひらめくかもしれません。

2 専業か、兼業か

どんな働き方をしたいか明確にしましょう。専業農家として農業一本に絞るなら、季節ごとに複数の作物の栽培を視野に入れるべきですが、それぞれの収穫時期を考慮する必要があります。また、自身の得意なことを活かして小さく生業(なりわい)を起し、兼業農家として働くこともできるでしょう。また、農業法人に就職するパターンもあります。

3 販売方法

どんな販売先に出荷するのか、考えましょう。田布施町の場合、いちごやイチジク、アスパラガスは管内JAの部会で共同販売に出荷することができます。他にも直売所やオンライン等で、独自の販路開拓に取り組む農業者もいます。成功の鍵は、生産するプロセスや出荷物によって、あなた自身が積み重ねる信用です。その上での人の繋がりが、新たな取引につながります。



就農までの準備資金

準備資金があるに越したことはありませんが、営農資金と生活資金の2種類を分けて考えるべきです。特に生活資金は、就農当初の無収入の期間、その後の安定した収量をあげるまでの期間、最低でも2~3年分を見込む方がいいでしょう。それを準備した上で、営農資金(機械投資等)も考えなければなりません。

新規就農者が就農前に用意した自己資金平均額は営農資金232万円、生活資金159万円という調査結果があります。*もちろんそれより少ない額で就農する人もいます。目指す生き方にどれだけの費用がかかるか、それを踏まえてから経営計画を立てましょう。

*全国新規就農相談センター(2017)
新規就農者の就農実態に関する調査結果 -平成28年度-



農地の確保

役場内にある農業委員会が貸付希望の農地を紹介できます。農地に限らず、施設園芸に必要なハウス等の情報提供も行います。地域においては、農地に向き合うあなたの背中が、何よりも強い説得力になります。栽培はもちろん、草刈などの日々の農地の管理も、重要な仕事であり、その姿は地域の人々に見られます。熱心な仕事ぶりを認められたら、他の所有者からも、自分の農地も耕作してほしい、と声をかけられることもあります。



移住した場合の住居

田布施町に移住を希望する人には空き家バンク制度で居住可能な物件を紹介しています。他にも町内外の不動産業者が賃貸や売買物件を取り扱っています。農業は急な天気の変化で、急いで作業しないといけないときがあるので、自宅と農地の距離の近さはポイントです。また、集落行事などで地域の人と関係を築くと、思わぬ物件を紹介してもらえるかもしれません。

ついに就農!

就農はゴールではなく、新たな歩みに向けたスタートです。作物中心の目まぐるしい日々が続きます。計画通りに進まないこともあるでしょうが、記録をとって分析し、次の実践に活かすことで、栽培技術や管理能力も身につきます。土地に根差し、五感で感じながら、自分の望む農ある暮らしを築いていきましょう。

田布施町では就農希望者に対し、それぞれの段階に応じた支援を行っています。就農前から就農開始直後までをサポートする補助事業が活用できます。

>> 最新の支援制度については

田布施町 農業を始めよう 検索



農家としての新しいスタート!



相談窓口・農業体験について

*オンライン相談も可能です

田布施町経済課
農林振興係

0820-52-5805

nourin@town.tabuse.yamaguchi.jp

やまぐち農林振興公社
担い手支援課

083-902-6696



Information

田布施町の概要

田布施町は、山口県南東部に位置し、瀬戸内海に面している町です。JR田布施駅を中心に道路網が四方に放射し、最寄り的高速ICから30分圏内と交通の便は非常に良好です。町の中心部には駅の外、役場、直売所や小売店が集積し、暮らす上での利便性にも長けています。

北には山岳地帯を構え、中央部は平坦な市街地となっており、その中央を田布施川が流れ、瀬戸内海へ続いています。春先には田布施川沿いの桜が満開を迎え、県東部でも屈指の花見スポットです。南の海上には離島もあり、漁業も営まれています。

日照時間が多くて降水量の少ない、温暖な瀬戸内海型気候区に属しており、近年は台風等の大きな災害もありません。

＜市場環境＞

近隣に管内JAの青果物卸売市場があり、多くの生産者が出荷しています。少し足を伸ばせば西側に周南市地方卸売市場・東側に岩国市地方卸売市場があります。県東部の農業者同士の交流も盛んで、意欲的な経営者が市町の垣根を越えて、本気の意見交換をしています。

@ 町の特徴

1 小行司地区（こぎょうじ）

山林に囲まれた田布施町の飛地である地域。農業法人が地域の担い手として、水稲やいちごの栽培を行っています。地域の方が運営する大衆食堂や直売処もあります。

2 田布施町郷土館

田布施町は全国的にも珍しい兄弟で総理大臣を務めた岸信介・佐藤栄作を輩出した町です。兄弟宰相をはじめとする、本町にゆかりのある人物の遺品・遺作等を展示公開しています。また、町内には県内最古級の国森古墳をはじめ80基以上の古墳が確認されており、出土した数多くの遺物も郷土資料として展示されています。

3 県立田布施農工高等学校

県東部唯一の農業関係高校。生徒は作物栽培、畜産、食品加工、農業土木、造園、防災などについて学んでいます。コンピュータや機械設計等を学習する工業系の学科もあります。高校生と町内の農業者が交流する機会も多く、町の生産物を活かした商品開発にも取り組んでいます。農業大学校への進学や農業法人への就職など新規就農に向けての進路選択ができます。

4 ふるさと詩情公園

田布施川河岸に設置された公園。懐かしい童謡・唱歌の歌碑が並び、童心に帰りながら散歩できる空間です。子どもが遊べる遊具の備えつけもあり、春は満開の桜、秋は山腹の紅葉を見ながら楽しい時間を過ごせます。



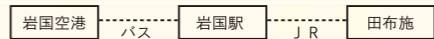
＜アクセス＞

大阪方面からのアクセス



お車の場合
最寄りインター「熊毛IC」

岩国錦帯橋空港からのアクセス



電車の場合
最寄り駅「田布施」

福岡方面からのアクセス



田布施町管内図



5 新鮮田布施

田布施町の漁協の支店前で週1回開催される対面販売の小さなお魚市。実は田布施町では県内でも有数の、漁業者の新規就業実績があります。小型底引き網でハモ、シタビラメ等の魚種が季節ごとに水揚げされています。冬場には馬島沖で養殖した牡蠣も販売しており、その人気は地元のお客さんも販売開始を待ちわびるほど。田布施町は、漁業も気合が入っています。



6 古代米田んぼアート

田んぼをキャンパスに見立て、色の異なる稲を用いて巨大な絵を描く、町内農業者の取り組みです。田布施町には古墳時代後期の遺跡が多く、古代米が栽培されていたのではという推察があり、それにちなんで古代米を作付することで、絵柄を浮かせ上がらせています。稲刈り前、稲穂の色が強く出る秋口が見頃です。収穫される古代米は栄養価も高く、加工食品としても販売されています。

7 田布施地域交流館

多くの買い物客と生産者で賑わう直売所。地元の生産物を通じて人が行き交う地域の交流拠点です（13-14 ページ参照）。



8 馬島

船に乗りわずか8分で着く、信号もコンビニもない、自然豊かな瀬戸内海国立公園の島。キャンプ場や海水浴場があります。



★ 生活環境について



住居について

町内に公営住宅のほか、民営のアパートや借家があります。



教育環境（学校）

町内には、公立・私立の保育園、公立の小・中学校、県立の田布施農工高等学校があります。



買い物など
(スーパーその他)

町内に、食料品・衣料品・日用品等の買い物ができる大型小売店が数ヶ所、及びコンビニが5ヶ所あります。



医療施設

町内に個人医院が数ヶ所あります。また、光市、柳井市など近隣市に総合病院もあり不便はありません。



働く場所

町内の就業は可能です。また、光市、柳井市、平生町など近隣市町が車で通勤可能範囲にあります。

移住サポート制度

support 1

お試し暮らしの家 おいでえ



田布施町外から移住を検討する人が、1週間以内の期間で利用でき、生活を実際に体験してもらうことを目的とした施設です。家具や家電製品なども常備しており、身軽にお試し暮らしができます。

🏠 利用料: 1泊1名 2,000円

support 2

田布施町空き家バンク



町内の賃貸できる空き家物件をデータベース化し、田布施町にUJIターンを希望する方に空き家に関する情報を提供するシステムです。

お申し込み・問い合わせ >>> 田布施町経済課 地域振興係 0820-52-5805

毎日が同じようで
同じでない
耕す日々の積み重ね。



ある日
見慣れた風景が
新鮮に感じられた。

その気持ちを胸に、
一步一步を踏みしめて。

